

ワーク・ライフ・バランスで 広げませんか？ あなたの生活！ 男女共同参画フォーラム 2008ひろいし

（問）子ども家庭課 ☎22-1363

平成13年8月1日に「宮城県男女共同参画推進条例」が施行され、その日を記念して毎年8月1日を皆さん一人ひとりが身近なところで男女共同参画を考える日とし、「みやぎ男女共同参画の日（愛称・みやぎパートナーズデー）」が制定されました。このフォーラムは、その関連事業として8月2日にホワイトキューブで開催されました。

■基調講演



▲講師の山田昌弘教授

家族社会学・感情社会学が専門で、親子・夫婦・恋人などの人間関係を社会的に読み解く試みを行い、「パラサイト・シングル」や「格差社会」などの名付け親としても知られる、中

央大学文学部の山田昌弘教授を講師に迎え、「21世紀の家族の姿、「家族」から読み解く男女共同参画」というテーマで基調講演を行いました。

山田教授は、「男女共同参画というのは、女性だけの権利を拡張することだけではなく、男女共同参画をしなければ日本社会はもたなくなっています。また、家族がもたなくなりますが、もたなくなるといっては、離婚したり少子化で結婚できなかつたりする時代になり始めているということなのです。

男女共同参画は、家の中で女性を強くするためにある訳ではなく、今まで弱かった人を助けるためにあるのもちろんなんです。社会全体のあり方や意識のあり方が、男はこう女はこうと決めつけられてくることによって、ゆがみが起きてるのがまずいんじゃないかというのが男女共同参画の本来のあり方なんです。



▲高木龍一郎教授

男女共同参画は、特に若い男性のためにあるという側面を強調していきたいと思っています」と話し、バランスをとってどちらか一方が不利にならないように、男女二人で自分たちに合った仕事や家事の配分をその都度決めていかなければ、うまくやっていけない時代になってきていることを訴えていました。

■パネルディスカッション

続いて、「ワーク・ライフ・バランスで、家庭も地域ももっと元気に！」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

・コーディネーター 高木龍一郎さん

（東北学院大学法学部教授）

高木…夫の理解、家族の理解のかわりから話してもらいましたが、家族とのかかわりで社会に出られる際の障害、困ったなというところがあったら紹介してください。

小泉…一番ネックになるのが旦那さんであり、パートナーが一番のパートナーであり協力者です。私の場合は、私自身が何かをすることにに対して協力的でなかったことはちょっと悲しかったかなと思います。

立田…イベントで家にいることが少ないので気持ちを探るように話すと、『まちづくりだろう』とか『にぎやかにしなきゃ』とか、かえって言われます。嫁としての意識が強すぎたかなと、若いとき損したかなと思っってます。

高木…私は学生結婚だったので、妻の方が先に働いてました。発言力という点からは、妻の方がずっと強かったです。結果的には、夫の意識も変わってきたと思っってます。

長原…今後の課題として、女性総合職比率や女性管理職登用比率を拡大したり、女性社員を海外に出向させたりして、人材育成をしていきたいと思っってます。

最後に、コーディネーターの高木教授から、「ワークライフバランスというものをきちんと

地域社会が元気になるにはどうすればいいのか。ということを企業の取り組み、女性支援の立場で活躍なさってる方、さらには自ら女性として会社を立ち上げて活躍なさってる方に事例の報告をしていただきたいと思っています。

・パネラー① 長原博さん

（NECトーキン株式会社 取締役人事総務部長）



▲長原博さん

平成19年度ポジティブアクション推進事業で、男女共同参画を積極的に推進していることで、知事から表彰を受けた会社です。

女性の働きやすい職場への配慮の取り組みとして、本年7月に事業所のある神奈川県で、子ども子育て支援推進条例に基づく認証を取得しています。女性が結婚や出産を境に辞めないで済むような仕組みを導入しています。目的休暇（ライフサポート休暇）を年次有給休暇と別につくっています。

・パネラー②
小泉知加子さん
（女性起業家を応援する新聞マガジン「わんからっ」と編集長）



▲小泉知加子さん

河北新報社の嘱託記者に応募し、運よく地元の新聞社に採用されたことが、大きな窓を開いた突破口だったと思います。嘱託記者ではいつか切り捨てられる立場でしたので、よし、ここで仙台で媒体を1つ興して、女性起業家の支援する雑誌を作り始めました。

男性と同等な立場で世の中を見ていきたいということは、子どものころの家庭環境から通じるものがあつたと思います。12年目で18,000部、青森県から長崎県まで郵送で送る新聞です。会員制でありながら、18,000部も発行している情報誌が成功したということは、全国でも例がないと言われているようです。主人が大反対だったからこそ、うまくいったのかなと思います。

■「女性のチカラを活かす企業認証制度」認証マークデザイン採用作品

県では、本年7月より女性も男性も働きやすい職場づくり、いわゆるポジティブアクションを進めている企業を認証して応援していくことと「女性のチカラを活かす企業認証制度」をスタートさせました。シンボルマークとして使用する認証マークデザインを募集したところ、274点の応募があり審査の結果、次の作品に決定しました。



●認証マーク
山田直人さん（名取市）

■男女共同参画イラスト・まんがコンクール入賞作品

家庭や職場、学校や地域などの身近な暮らしの中で、「男だから…」「女のくせに…」といったことで「おかしい、変だ、こうだったらいいのに」と感じたことなどを題材にした、イラスト・まんがコンクールを実施し、130点の応募の中から11点の入賞作品が決定しました。



●学生部門金賞「得意・不得意」
大浦理歩さん（仙台市）



●一般部門（高校生以下）金賞
「男だから？女だから？ 僕の職場風景」
小川美香子さん（仙台市）



▲立田ふち子さん

・パネラー③ 立田ふち子さん

（白石まちづくり株式会社事務局）

昔の商家屋敷（壽丸屋敷）の洋間に事務局をおいています。どのイベントでも感動の連続で、この感動を一人でも多くの人に伝えたいという思いで毎日ブログを更新しています。

地域での活動としては、食生活改善推進委員会というボランティア団体に入会し、25年になります。自分の健康は自分の手で、元気で長生きをスローガンにした全国組織の団体です。男性でも女性でもどちらかが社会に出ている分、どちらかが家庭を守ってくれと安心して働けません。一生懸命頑張っていると、家族も自然に協力してくれると思っます。『お母さんが幸せじゃないと子どもも幸せじゃないんだよ』と子どもから言われたことがありました。自分の幸せが周りをも幸せにします。遅ればせながら、最近やっと理解できるようにになりました。